

CMIC REPORT 2015

シミックレポート2015
2014.10.1-2015.9.30
第31期 ビジネスレポート

CONTENTS

- | | |
|------------------------|----------------------------------|
| 01 「CMIC'S CREED」制定 | 11 CSR活動報告 |
| 02 CEO中村和男メッセージ | 12 ダイバーシティの推進 |
| 03 トップインタビュー | 13 TOPICS |
| 07 特集「業績回復と
成長に向けて」 | 14 株式の状況／会社概要 |
| 09 事業別概況と見通し | 巻末 株主メモ／
healthクリックの
健康コラム |



CMIC

Pharmaceutical Value Creator

「一人ひとりの生命に向き合いヘルスケア分野に革新をもたらす」

近年の医薬品・医療の技術進歩は目覚ましいものがあり、多くの方々がその恩恵を受けることが可能となってきました。一方で、まだまだ行き届いていない疾病領域もあり、より早い新薬開発、より安く、高品質な医薬品へのニーズも高まっています。このように医薬品産業が大きな変革期にある中、私たちシミックグループは多様化・高度化するニーズに応えるため、自らを柔軟に変化させながら、ヘルスケア分野に革新をもたらさなければなりません。

その一方で、私たちが自己変革を続けていく中で変えて

はならない大切な創業の精神があります。こうした想いを込めて「CMIC'S CREED」を制定いたしました。シミックグループの創業者である中村和男が日本初のCROの創業にかけた情熱。様々な壁を乗り越えながら独自のビジネスモデルPVC (Pharmaceutical Value Creator) を確立させるに至る志。生命関連産業に携わる誇りと意義。そうした「CMIC'S CREED」に込められた想いを、私たちシミックグループの役員一人ひとりが胸に刻み、人へ社会へ貢献する企業として挑戦を続けていきます。



〈私たちの決意〉

一度しかない人生を、年齢や性別、人種に関わらず、誰もがその人らしくまっとうしていくために、ヘルスケア分野に革新をもたらすことを、シミックグループの志とする。

まばゆい成長力を開花させる幼年でも、人生を成熟させていく老年でも、今この瞬間を生きようとする願いは、どれも等しく尊い。そのすべてをひとつたりとも見過ごすことなく、正面から受けとめていきたい。

そのために私たちは、いついかなるときもより良い未来を求める挑戦者でいたい。

そして、自己を変革し、新たな視点を獲得することで、自らのゆるぎない情熱を価値に変えて、人や社会に提供し続けていく。



CMIC'S CREEDの制定に合わせ、シミックの創業時から受け継がれている企業カルチャーも、解釈を見直しました。「WELLBEING」を実現するための3つのC。

Top Message

「CMIC'S CREED」で掲げた決意を胸に、2016年9月期業績V字回復の実現とさらなる飛躍を目指します

株主の皆様には、日頃より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。2015年9月期の決算および事業の概況についてご報告申し上げます。

近年の医薬品業界は、政府の成長戦略において医療関連産業活性化の方針が示されるとともに、ジェネリック医薬品の普及促進のための数量シェア目標が80%以上となるなど、ヘルスケア分野の技術革新に伴う環境変化だけでなく、社会構造の再構築に伴うビジネスモデル変革の必要性も高まっております。

当社グループの主な顧客である製薬企業における組織体制の最適化と経営の効率化、新薬創出に向けた研究開発力の一層の強化、安定供給に向けた生産体制確立等の流れにより、市場規模は中期的に拡大傾向にあります。さらに、産官学連携を通じた迅速な新薬創出を促進する政策を受け、顧客層はこれまでよりも拡大していくと見込まれています。

このような環境の下、当社グループは、皆様のご支援のおかげをもちまして、売上高55,904百万円と過去最高の売上を達成いたしました。営業利益につきましては、CMO事業およびヘルスケア事業における売上高減少などの影響により、誠に遺憾ながら二期連続の減益となりました。

当期より本格的な取り組みを開始いたしました、赤字事業の解消およびコスト構造の改革を推進し、さらなる成長に向けたビジネスモデルの進化を図るProject Phoenix(プロジェクト フェニックス)を着実に進め、2016年9月期の連結業績V字回復に向けた一層の努力を重ねてまいります。また、今期新たに制定いたしました「CMIC'S CREED」を軸に役員一人ひとりが自己変革に取り組み、当社グループ独自の事業モデルPVC (Pharmaceutical Value Creator) のさらなる進化・飛躍を目指し尽力してまいりますので、何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



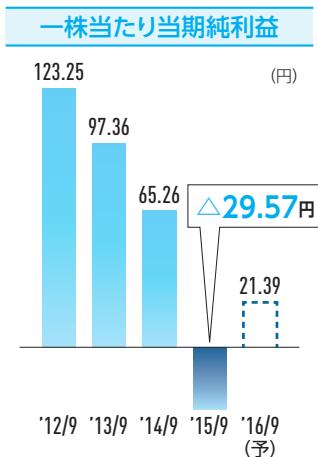
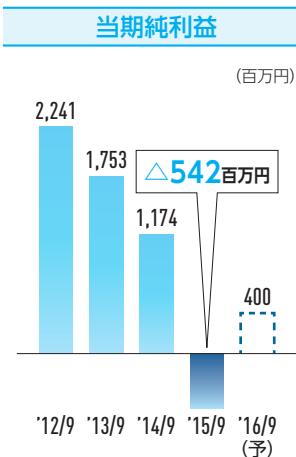
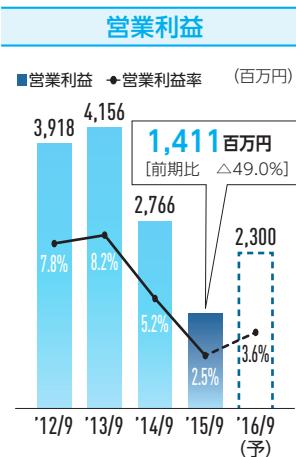
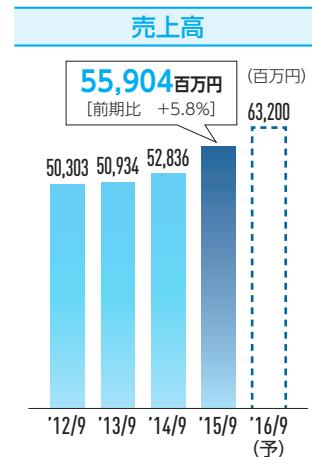
代表取締役CEO 中村 和男



Q 当期の業績について教えてください

A 当期は、2016年9月期の業績V字回復を実現するために、赤字事業の解消およびコスト構造の改革を推進するProject Phoenixを本格的に稼働させ、CMO、SMO（治験実施施設支援）、IPD事業の業績改善に向けてグループ一丸となって取り組みました。

当期の売上高は、CRO事業の順調な進捗と、CSO事業の拡大、シミックCMO足利(株)および(株)JCLバイオアッセイの業績が加わったことにより増加し、55,904百万円(前期比5.8%増)となりました。一方、営業利益は、ヘルスケア事業の前期受注の進捗遅れやシミックCMO(株)の一部受託製品の生産終了の影響などにより、1,411百万円(前期比49.0%減)となりました。当期純損益は、2015年度税制改正と、一部の連結子会社の繰延税金資産の回収可能性の見直しに伴い、繰延税金資産のうち829百万円を取崩した影響などにより、542百万円の損失となりました。



Q 株主還元についてお聞かせください

A 当社は、株主の皆様への利益還元を経営上の重要政策の一つと位置付け、収益力向上や企業基盤強化のための内部留保を確保しつつ、業績に応じた配当を実施することを基本方針とし、連結配当性向の目標を30%としています。

当社の利益配分方針において、安定的かつ継続的な配当の実施により、株主の皆様のご支援に報いる方向性に変更はありませんが、中期的な株主価値の向上を図る観点から、業績に連動した株主の皆様

への利益還元とのバランスを考慮した資本政策を行うにあたり、安定的な配当につきましては、当面、年間配当金の下限を10円と明確化し、業績に応じた配当(配当性向30%)を実施すべく、基本方針*を見直しました。

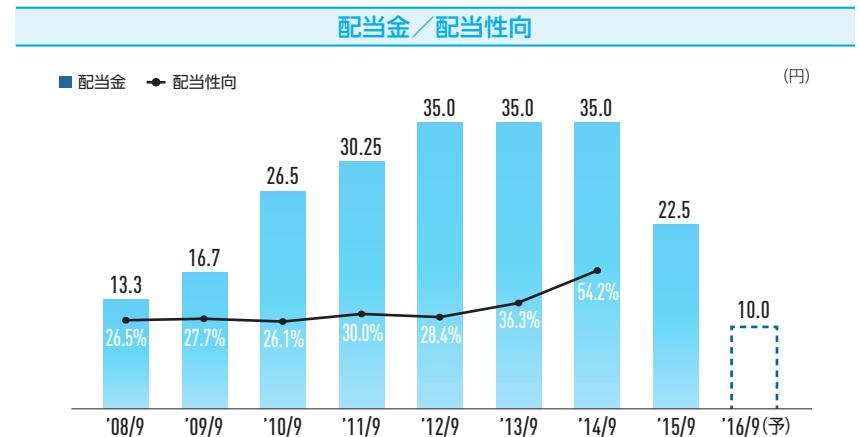
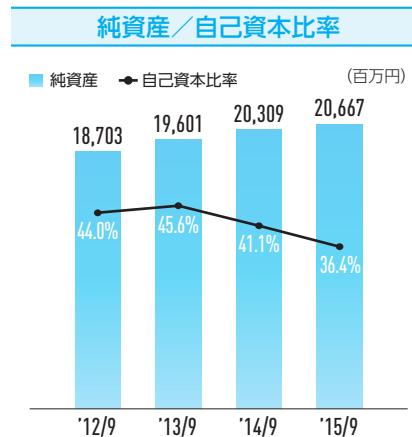
当期は純損失を計上することとなったことから、誠に遺憾ではございますが、変更後の利益配分に関する基本方針に基づき、1株当たり期末配当金を5円に修正させていただきました。

***〈利益配分に関する基本方針〉**

当社は、株主の皆様への利益還元を経営上の重要政策の一つと位置付け、収益力向上や企業基盤強化のための内部留保を確保しつつ、業績に応じた配当を実施することを基本方針としております。

この方針のもと、配当金につきましては、連結配当性向の目標を30%とし、同時に継続的かつ安定的な配当実施にも努めてまいります。なお、安定的な配当につきましては、当面、年間配当金の下限を10円とします。

内部留保資金の用途につきましては、経営環境の変化に対応し得る企業体質の強化を図るとともに、持続的な成長を実現するために設備投資や開発投資などに活用していく所存です。



Q 業績回復に向けた取り組みについて教えてください

A 業績V字回復を実現するためのProject Phoenixに取り組んでいます。

CMO事業においては、サービス業に適した構造改革への取り組みによりコスト競争力が向上しています。また、積極的な営業活動により案件の引き合いが増加し、2016年9月期は業績が大幅に改善し、黒字に転じる見通しです。

SMO(治験実施施設支援)業務につきましては、営業活動の強化と医療機関ネットワークとのリレーション強化に取り組んでいます。前期の受注進捗の遅れにより、足元は厳しい状況ではありますが、引き続きProject Phoenixでの取り組

みを継続し、2017年9月期の黒字化を目指します。

IPD事業では、(株)オーファンパシフィックの新たな取り組みとして、東レ・メディカル(株)とコ・プロモーション等の業務提携や、アステラス製薬(株)とオーファンドラッグを含む3製品の製造販売承認の承継契約を締結し販売を開始したことから、売上が大幅に増加する見通しです。

今後も、各事業の収益性と生産性の向上、サービスの一層の強化に仕組み、「One CMIC」として事業間シナジーを追求し、持続的成長の実現を図ります。

PVC(Pharmaceutical Value Creator)

製薬企業のバリューチェーンを総合的に支援するビジネスモデルをさらに進化させ、PVCならではのソリューションの提供でさらなる成長を目指します。



Q 2016年9月期の見通しについて教えてください

A 2016年9月期の見通しにつきましては、堅調な受注を背景にCRO事業、CSO事業の売上が伸長し、売上高は63,200百万円(当期比13.0%増)となる見通しです。営業利益につきましては、当期に実施したCMO事業のコスト構造改革の効果が通年で寄与することから、当

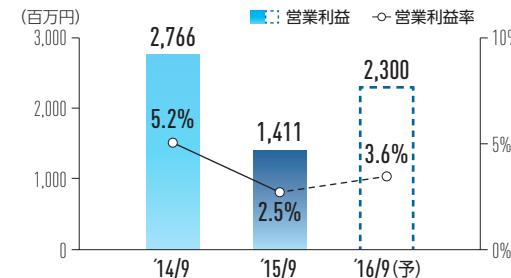
期に比べ大幅に増加し、2,300百万円(当期比62.9%増)と想定しています。経常利益は、営業外支出として支払利息、シミックJSRバイオロジックス(株)の投資持分損失等の計上を見込んでおり1,960百万円(当期比101.9%増)、当期純利益は、400百万円となる見通しです。

当レポートに記載されている業績予想並びに将来予測などは、入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、さまざまな要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは異なる結果となる可能性があります。

2016年9月期通期見通し(百万円)

●全体	2015(実績)	2016(見通し)	増減率
売上高	55,904	63,200 ↗	+13.0%
営業利益	1,411	2,300 ↗	+62.9%
経常利益	970	1,960 ↗	+101.9%
当期純利益	△542	400 ↗	-

●セグメント別	2015(実績)	2016(見通し)	増減率	
CRO事業	売上高	27,471	30,000 ↗	+9.2%
	営業利益	5,092	4,900 ↘	△3.8%
CMO事業	売上高	13,810	14,900 ↗	+7.9%
	営業利益	△325	350 ↗	-
CSO事業	売上高	8,875	10,300 ↗	+16.1%
	営業利益	716	750 ↗	+4.6%
ヘルスケア事業	売上高	5,640	6,300 ↗	+11.7%
	営業利益	△1,188	△200 ↗	-
IPD事業	売上高	762	2,500 ↗	+228.0%
	営業利益	△356	△400 ↘	-
調整額	売上高	△656	△800 ↘	-
	営業利益	△2,526	△3,100 ↘	-
合計	売上高	55,904	63,200 ↗	+13.0%
	営業利益	1,411	2,300 ↗	+62.9%



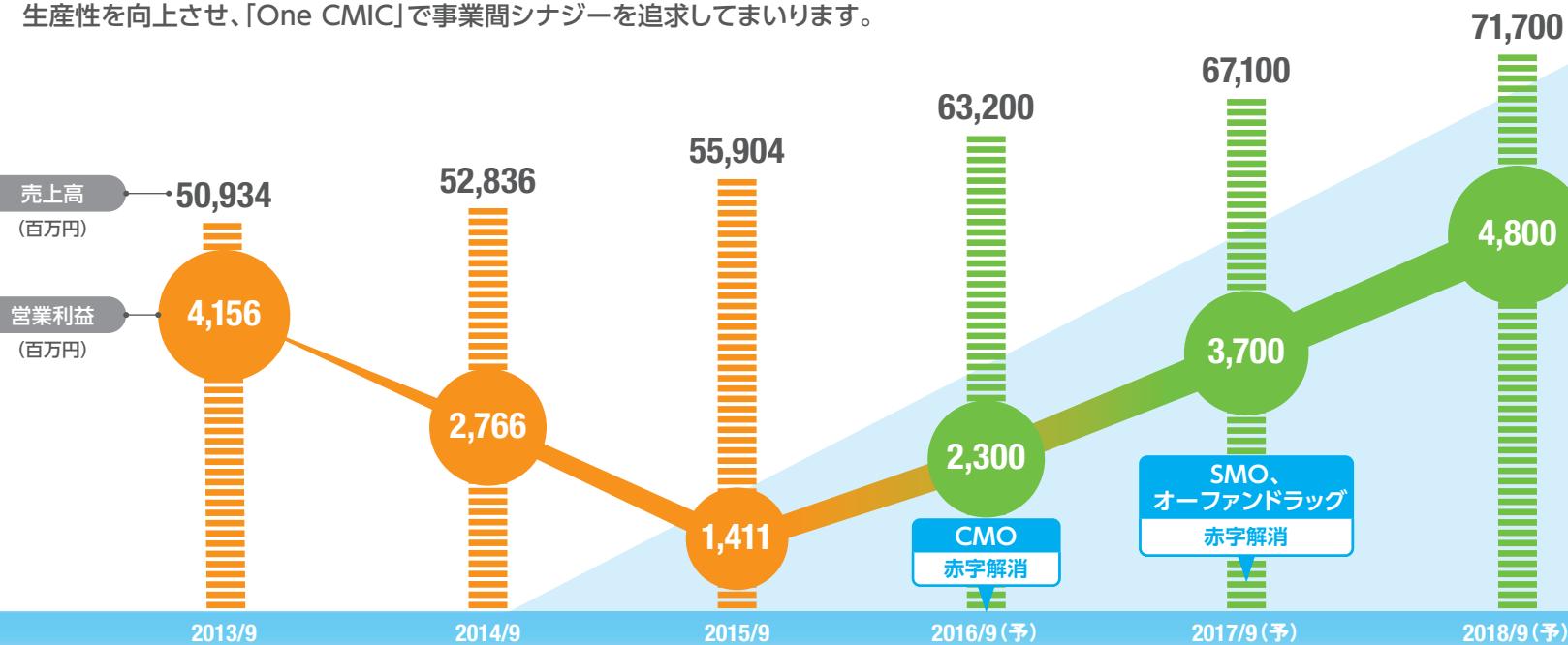
特集 業績回復と成長に向けて

Project Phoenix

プロジェクト フェニックス 進捗と展望

2015年9月期より、赤字事業の解消およびコスト構造の改革を推進する「Project Phoenix」を本格的に稼働させ、CMO(医薬品製造支援)、SMO(治験実施施設支援)、IPD(知的財産開発)の3事業の業績回復に取り組んでいます。そのほかの事業においても、将来にわたる成長のための基盤作りを進め、サービスの一層の充実を図っています。

シミックグループは、ヘルスケア分野のソリューションプロバイダーとして次の時代へ飛躍すべく、収益性と生産性を向上させ、「One CMIC」で事業間シナジーを追求してまいります。



Project Phoenix 1.0
赤字事業の解消、コスト構造の改革

中期経営計画

経営目標

業績V字回復の実現とさらなる飛躍
～2020年 売上1,000億円企業に向けた基盤確立～

各セグメント No.1

グループシナジー発揮

重点課題

収益力の強化

ソリューションビジネスの拡大

人財の育成

国際化・イノベーションの推進

Project Phoenix 2.0

PVCモデルならではのソリューション提供

アカデミアソリューション

アカデミアに不足するスキルなどを総合的にサポート

ジャパンビジネスソリューション

海外企業の日本展開をサポート

オンコロジービジネスソリューション

オンコロジー(がん)領域での開発・製造・マーケティングを総合的にサポート

バイオ医薬ビジネスソリューション

バイオ医薬品の分析から製造(次世代抗体など)までをサポート

生薬ビジネスソリューション

アカデミアを活用した生薬の安定供給に向けたソリューション

ベトナムにおけるヘルスケアビジネス展開

Project Phoenix 3.0

さらなる成長に向けた
ビジネスモデルの進化

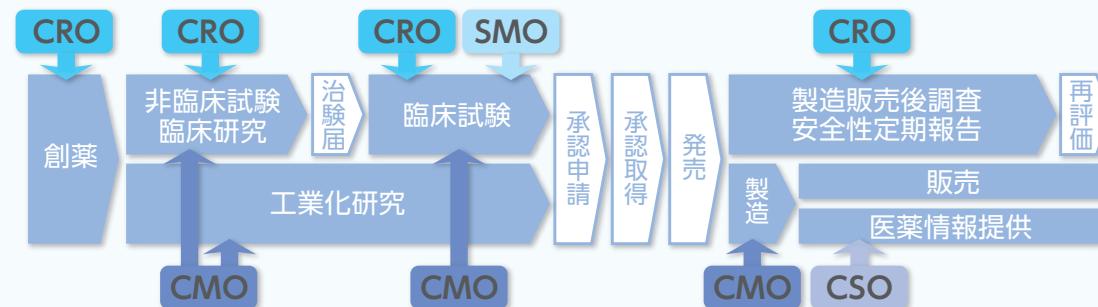
売上高

1,000億円

営業利益

10%

医薬品の開発から販売までのすべてをカバーする総合力を活かす



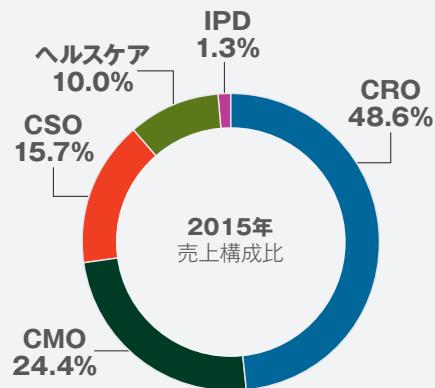
IPD

自社で知的財産を開発する事業
診断薬「レナプロ®L-FABPテスト」、オーファンドラッグの開発製造販売

ヘルスケア

個人のヘルスバリューを高める事業
健康情報サービス、コールセンター業務

事業別概況と見通し



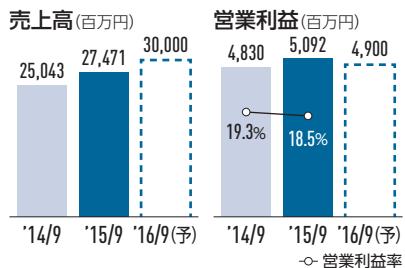
(株) 応用医学研究所および(株) JCLバイオアッセイは、2014年10月1日付で報告セグメントをCMO事業からCRO事業に変更しています。セグメント別の業績につきましては、当該変更後の区分に基づいて比較しています。

各事業の主要顧客



CRO (医薬品開発支援) 事業

非臨床試験・臨床試験(治験)・承認申請・製造販売後調査・分析化学サービス等、開発全般の支援



業績概況

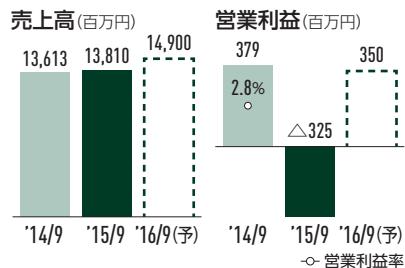
モニタリング業務およびファーマコヴィジランス業務(安全性情報管理の支援)において新規受注および既存案件が堅調に進捗したこと、(株) JCLバイオアッセイ等の業績が加わったことなどにより、売上高は前期を上回りました。また、営業利益についても、ファーマコヴィジランス業務が順調に進捗したことにより、前期を上回りました。

2016年9月期見通し

海外企業や異業種企業の市場参入支援、医療機器関連事業の強化や非臨床業務における体制強化を図ります。モニタリング業務を中心に引き続き受注が堅調である一方、ソリューションビジネス強化のための先行投資や米国の非臨床業務の体制整備を進めていることから、増収減益を見込んでいます。

CMO (医薬品製造支援) 事業

製剤開発、治験薬・医薬品の受託製造



業績概況

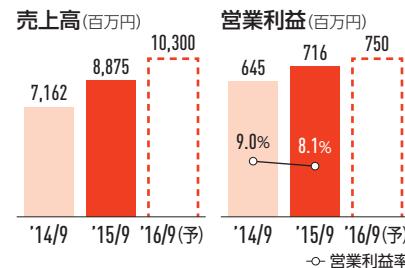
売上高は、シミックCMO足利(株)の業績が加わったこと、シミックCMO(株) 富山工場において新規案件の受託生産が順調に進捗したことなどにより前期を上回りましたが、シミックCMO(株) 静岡工場における一部受託製品の生産終了に伴う生産量の減少などにより、営業損失が発生しています。

2016年9月期見通し

技術力の強化と戦略的な設備投資を通じて競争力強化を図ります。また、シミックJSRバイオリジックス(株)において、次世代抗体医薬品の設計と製造プロセスの開発を進めています。当期に実行したコスト構造改革の効果が通年で寄与することから、増収増益を見込んでいます。

CSO (医薬品営業支援) 事業

MR(医薬情報担当者)の派遣や医療・製薬業界向けBPO・人材サービス



業績概況

売上高および営業利益は、MR*派遣業務およびBPO(Business Process Outsourcing) サービス業務において既存案件が好調に進捗したことなどにより、前期を上回りました。

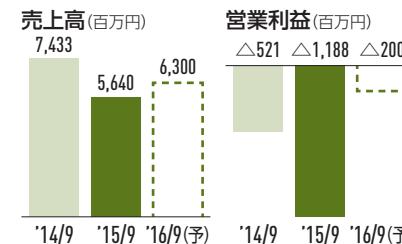
*MR(医薬情報担当者): 医療機関に対して、医薬品の効能や副作用などに関する情報の提供と収集にあたる専門スタッフのこと

2016年9月期見通し

シミック・アッシュフィールド(株)において、MR派遣業務の受注力強化およびサービスモデル拡充の取り組みを継続し、市場シェアの拡大を図ります。MR派遣業務およびBPOサービス業務において堅調に受注が推移していることから、増収増益を見込んでいます。

ヘルスケア 事業

治験施設支援やヘルスケア情報サービス



業績概況

SMO*業界の競争激化および前期における受注進捗の遅れに伴い、売上高が前期を大幅に下回り、稼働率が低下したことにより、営業損失が発生しています。

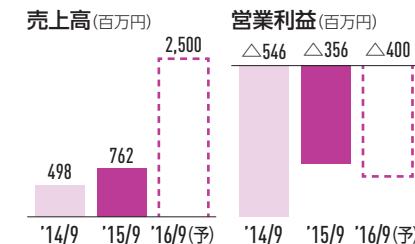
*SMO(Site Management Organization) 治験施設支援機関: 臨床試験を実施する医療機関から委託を受けて医療機関の治験業務を支援する企業・組織

2016年9月期見通し

サイトサポート・インスティテュート(株)の営業活動の一層の強化、医療機関ネットワーク拡大への取り組みを通じて新規受注が回復傾向にあることから増収を見込んでいます。また、プロジェクト進捗管理の徹底などの経営効率化により、営業赤字の削減を見込んでいます。

IPD (知的財産開発) 事業

診断薬やオーファンドラッグなどの開発や販売



業績概況

売上高は、診断薬の販売量の増加およびオーファンドラッグにおける新たな取り組みにより前期を大幅に上回りましたが、診断薬などにかかる研究開発費および(株) オーフアンパシフィックにおける販売にかかる費用などの支出により、営業損失が発生しています。

2016年9月期見通し

オーファンドラッグ事業においてアステラス製薬(株)から承継した「ダントリウム®」「アストミン®」の販売を2015年10月より開始したことから増収を見込んでいますが、診断薬などにかかる研究開発費の支出および製品承継にかかる費用の増加などにより営業損失を見込んでいます。

CSR活動の一環として 「ブラインドサッカー体験会」に協賛

音の鳴るボールを使い、目隠しをしてプレーする「ブラインドサッカー」をご存知ですか？
パラリンピックの正式種目でもあり、国際大会の開催など盛んにプレーされています。



9月23日(水)秋分の日、山梨県北杜市で当社協賛による「ブラインドサッカー体験会」が開催されました。山梨県の子どもたち150名が参加し、ブラインドサッカーの日本代表選手2名および日本ブラインドサッカー協会講師の指導によるブラインドサッカーの体験と、ヴァンフォーレ甲府のスクールコーチによるサッカー指導が行われました。子どもたちはアイマスクを着け、視覚の情報がない状態に戸惑いながらも、ボールの音や仲間の声を頼りにプレーに取り組みました。プレー後は「見えない状態のサッカーはとても難しい」「目が見えない人の苦勞がわかった」などの感想が聞かれ、子どもたちが視覚障がいを理解するとともに、仲間とのコミュニケーション、チームプレーの大切さに気付くことで子どもたちの成長の一助となる体験となりました。



シミックは今後も積極的にこのような活動の支援に取り組んでいきます。



ブラインドサッカーとは

フットサル(5人制サッカー)を基にルールが考案された、視覚を閉じた状態でプレーするサッカーです。ゴールキーパーは目の見える人が務めますが、4人はアイマスクを着けてプレーします。健常者と視覚障がい者が力を合わせてプレーするため、技術だけでなく、選手同士の声の掛け合いも含めたコミュニケーションが勝負のカギを握ります。

ダイバーシティの推進

シミックグループでは、社員の多様性や個性を尊重し、一人ひとりの価値を活かす柔軟性のある仕組みづくりに取り組んでいます

企業としての強さと価値を高めるためには、国籍、文化の違いに対してバイアスを持たずに、異なる意見や考えをオープンに議論し切磋琢磨することが必要と考えています。海外拠点や日本で活躍する外国籍の社員がシミックグループについてどのように考えているか、インタビューしました。



1. どんな仕事をしていますか？
2. シミックグループはどんな会社ですか？
3. クールジャパンと感じることは？ または、日本で好きなところは？



名前：チャン・ペイ・ニー
出身地：マレーシア
所属：CMIC ASIA-PACIFIC, PTE. LTD.
Managing Director

A.1 シンガポールを拠点とし、シミック本社および韓国、中国、台湾などのアジア子会社と連携してアジア地域におけるCRO事業をマネジメントしています。また、CMIC ASIA-PACIFICの事業開発、臨床開発業務の責任者を務めています。

A.2 シミックのグローバル化に向けた舵取りは正しい方向性にあると感じています。シミックのユニークなビジネスモデル「PVC」に非常に感銘を受けています。品質、コンプライアンス、チームワークを等しく重要視するシミックで充実して働いています。

A.3 多くの点で日本に好感を持っています。特に人に対する感謝の態度、文化を守る姿勢、すべてのプロセスにおける高品質の追求と並外れた忍耐力、そして固い決意がある点などでしょうか。



名前：ミゲル・マルティン
出身地：アルゼンチン共和国
所属：シミック・アッシュフィールド(株)
ニューチャネル事業部門長

A.1 2012年に入社以来、アッシュフィールド社との連携を進め、新しいサービスモデルを構築しています。現在、CSO事業はMR派遣が中心ですが、コールセンターやウェブサービスなど、欧米で先行しているモデルを日本向けにカスタマイズし、クライアントに提案しています。

A.2 オープンマインドな人、柔軟な考えの人が多くという印象を持っています。自分自身は不可能なことは存在しないという理念で働いていますが、シミックは裁量を与えてくれるので責任をもって自由に動けます。働きやすい会社だと感じています。

A.3 日本は色々な面においてしっかりとしたシステムや方法を採用しているため安心感があり、自分のことに集中できるところが好きです。



名前：パクストントレバー
出身地：アメリカ合衆国
所属：シミックホールディングス(株)
ITサービスマネージャー

A.1 海外にあるCMIC Group Companies支援をベースに、「ITインフラ統合」から「業務に使われるクラウドシステムの導入、システム管理」まで幅広く各ビジネスに関わっています。主にCROとCSOをサポートしています。

A.2 新しいことを歓迎する、グローバルマインドを持つようとしている、意見をはっきり言える人々だと感じています。

A.3 最近、日本酒や日本産のワインを楽しんでいます。谷川岳の原水で作られた甘いお酒が美味すぎて家族やアメリカにいる友人に色々紹介したくなりますね。

CRO (医薬品開発支援) 事業

分析化学サービス業務の受託強化のため、2015年3月に(株)JCLバイオアッセイを株式交換により完全子会社化(2015年10月に、(株)応用医学研究所と合併。現シミックファーマサイエンス(株))し、医薬品分析に関わる国内最大のCROとなりました。また、2016年から新薬申請時における臨床

電子データの提出が義務化されることに合わせ専門部署を設置し、近年ニーズが高まっている再生医療分野のコンサルティング専任チームを発足する等、新分野への対応を進めました。2015年11月には、オンコロジー(がん)領域でのサービス拡充のため、(株)シフトゼロと資本業務提携に関する基本合意を結びました。

CMO (医薬品製造支援) 事業

シミックCMO(株)富山工場において新製造棟が本格的に稼働し新規案件の受託生産を開始、シミックJSRバイオロジックス(株)静岡事業所において次世代抗体医薬品の設計と製造プロセスの開発を行うバイオプロセス開発棟が竣工しました。2015年3月には、バイオ医薬品に関する技術導入を図るため、米国のバイオ医薬品開発・製造受託会社KBI Biopharma Inc.をJSR(株)および(株)産業革新機構と共同で買収しました。また、2015年10月には、戦略的な設備投資として、シミックCMO足利(株)において高薬理活性製

剤や生物由来製剤に対応する新注射剤棟を建設することを決定し、2016年10月着工、2018年末の稼働開始を目指してプロジェクトを進めています。



シミックJSRバイオロジックス(株) バイオプロセス開発棟

CSO (医薬品営業支援) 事業

合併会社シミック・アッシュフィールド(株)が2014年10月に発足し、受注力強化およびサービスモデル拡充に取り組みました。2014年11月には、世界22カ国にヘルスケアサービスを

展開するアイルランドのUDG Healthcare plcと戦略的業務提携を合意し、UDG社のアジア展開における強みを活かし、CSO事業およびCMO事業の競争力強化に取り組んでいます。

IPD (知的財産開発) 事業

アステラス製薬(株)より、オーファンドラッグを含む3製品の製造販売承認の承継を受け、2015年4月に1製品、10月より2製品の販売を開始しました。また、東レ・メディカル(株)と販売提携に関する契約を締結し、販促活動を開始しました。



新たに販売を開始したオーファンドラッグを含む3製品

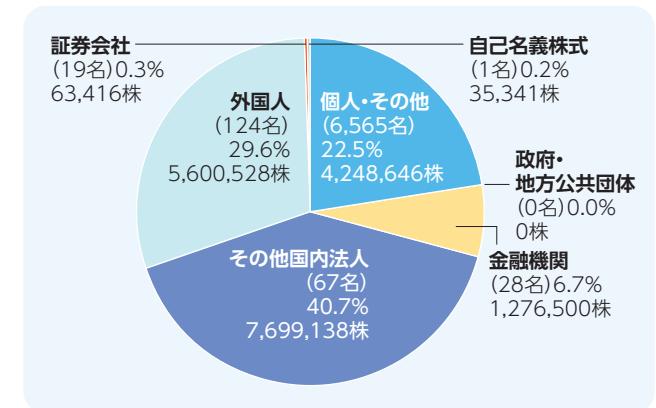
発行可能株式総数	46,000,000株
発行済株式総数	18,923,569株
株主数	6,804名

大株主

株主名	所有株式数 (株)	持株比率 (%)
株式会社アルテミス	6,368,200	33.65
株式会社キースジャパン	1,163,140	6.14
THE BANK OF NEW YORK-JASDECTREATY ACCOUNT	1,018,800	5.38
PERSHING-DIV. OF DLJ SECS. CORP.	862,707	4.55
中村和男	546,020	2.88
TAIYO HANEI FUND, L.P.	486,900	2.57
シミックホールディングス従業員持株会	450,896	2.38
GOLDMAN, SACHS&CO. REG	433,300	2.28
THE BANK OF NEW YORK 133522	340,600	1.79
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	290,960	1.53

(注)発行済株式総数に対する持株比率は、小数点以下3位を切り捨てております。

所有者別の構成比率(株式数比率)



商号	シミックホールディングス株式会社
設立	1985年
資本金	3,087百万円
本社所在地	〒105-0023 東京都港区芝浦1-1-1 浜松町ビルディング ※5月1日付で移転しました。
事業所	名古屋支社 大阪支社 九州支社
従業員数	5,800名(連結) (2015年9月30日現在)
グループ会社 (連結子会社)	シミック(株) シミックPMS(株) (株)シミックバイオリサーチセンター シミックファーマサイエンス(株)** CMIC, Inc. CMIC Korea Co., Ltd. CMIC ASIA-PACIFIC, PTE. LTD. CMIC ASIA PACIFIC (MALAYSIA), SDN. BHD. CMIC(Beijing) Pharmaceutical Services Co., Ltd. CMIC(Beijing) Co., Ltd. シミックCMO(株) シミックCMO足利(株) CMIC CMO Korea Co., Ltd. CMIC CMO USA Corporation シミック・アッシュフィールド(株) (株)シミックBS サイトサポート・インスティテュート(株) (株)ヘルスクリック CMIC VIETNAM COMPANY LIMITED (株)オーファンパシフィック
(関連会社)	シミックJSRバイオロジックス(株) エムディエス・シーエムジー(株)

※ 2015年10月1日付で、(株)応用医学研究所と(株)JCLバイオアッセイを統合し、社名変更しました。

株主メモ

事業年度	10月1日から翌年9月30日まで
剰余金の配当基準日	9月30日(中間配当を行う場合は3月31日)
定時株主総会	毎年12月
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほ証券株式会社 本店および全国各支店
郵便物送付先・ お問合せ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ 0120-288-324(フリーダイヤル)
公告方法	電子公告(http://www.cmhc-holdings.co.jp/) ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。
証券コード	2309

ご案内

少額投資非課税制度(NISA)口座における 配当金のお受け取りについて

新規に購入された当社株式をNISA口座で所有される場合、配当金につき非課税の適用を受けるためには、口座管理機関(証券会社等)を通じて配当金を受け取る方式である「**株式数比例配分方式**」を、お選びいただく必要がございます。NISA口座に関する詳細につきましては、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

シミックホールディングス株式会社

〒105-0023 東京都港区芝浦1-1-1 浜松町ビルディング
Tel 03-6779-8000
<http://www.cmhc-holdings.co.jp/>

UD FONT
by MORISAWA

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



Made in
Fukushima

この印刷物は、復興支援の一環として、福島県の印刷会社に製造を依頼し発行したものです。

ヘルス healthクリック の健康コラム

災害時の健康を守るために

地震をはじめとした自然災害への備えとして、避難袋の用意、家具の固定、避難場所の確認などを実践している家庭が増えましたが、健康管理に関する備えは、まだ十分に浸透していないのが現状です。

避難袋に入れておきたいもの

1995年に発生した阪神・淡路大震災。多くの命が失われましたが、震災後2カ月以内に死亡した「震災関連死」のうち、もっとも多かったのが「肺炎」で、そのほとんどが「誤嚥性(ごえんせい)肺炎」だったと考えられています。誤嚥性肺炎の予防には歯磨きが有効ですが、避難所では歯ブラシや水の不足により、日常生活と同じようには歯磨きができない場合があります。避難所でも歯や口の中の健康を保てるように、避難袋の中に歯ブラシやマウスウォッシュ、義歯洗浄剤などを入れておきましょう。



歯ブラシ以外にも
入れておくと安心な
ものとは…?

この続きはhealthクリックのサイトで
避難袋 を検索

▶「災害時の健康を守るために! 避難袋に絶対に入れておきたいモノ」をご覧ください。

ヘルス healthクリック

「healthクリック」は、健康一般情報および疾病に関する情報を提供する日本最大級の健康ポータルサイトです。ぜひ活用ください。



病院・薬・サプリメントの情報満載!

詳細はこちらへ → <http://www.health.ne.jp>